

2年間の活動を通して



「SDGs 朗読劇を作成して」

清水 正

甲府市男女共同参画推進委員会は、SDGsの17の目標のうち目標5の「ジェンダー平等を実現しよう」を中心に6つの目標に賛同してその理念を基に推進活動を行っています。今期は、プロジェクトチームにより「SDGsに敏感な視点で日常をみる」と題して、日常生活の中でのSDGsに対する気づきを与えたいとの思いから朗読劇を作成しました。声をかけていただければ自治会での会合やいきいきサロン等へのお出前講座として皆様のごところへお出掛けしてまいります。ぜひ活用していただきたいと思います。



「推進活動・出前講座に参加して」

森 みどり

推進委員のプロジェクトチームが作成した「SDGsに敏感な視点で日常をみる」の朗読劇に参加しました。内容は家族の日常での何気ない行動や会話が中心です。私はトラクターを運転する元気な祖母役でした。発表から、家族や地域社会の中で、性別にとられず、自分の出来ることをやることが大切であり、それがSDGsの目標の一つひとつに繋がっていくのではないかと気づきました。今後は、持続可能な社会実現の意識を持って生活していきたいと思えます。



「男女共同参画推進委員として」

落合 洋子

今期は、ジェンダーの視点から考える防災が課題でした。取り組んでみると、新たな気づきがたくさんありました。主に避難所の開設から運営に至るまで、これまで「こうしたもの」と当たり前のように見てきた事が全く当てはまらない、そこからどう改善してゆけばよいか、まだまだ道半ばです。私達2年間の活動は、ほんの入り口でしかありません。さらに多くのことを学び、考え、踏み込んで取り組むことが、誰も取り残さない防災の実現にたどり着けることと確信しています。

先日、近所で高齢化により活動が出来なくなり、自治会を退会した組がありました。今後、若い世代の多い組とのペアリングによって、誰も取り残さない防災への足掛かりとなるのではないかと自治会へ提案しました。このような考えに至ったのも、ささやかですが活動の成果だと思っています。



「ジェンダー視点でみた防災の大切さ」

中村 京子

2024年元旦の能登半島地震では心痛むニュースが次々届き、本当に辛い気持ちになる年明けでしたが、過去の被災で聞くことの少なかった避難所での性被害防止のための注意喚起を頻りに目にし耳にした事は、大きな進歩と感じました。

甲府市男女共同参画推進委員会でも防災における女性視点の大切さに取り組んだ2年間、その集大成のフォーラムで東日本大震災発生以来、避難所における支援活動に取り組んで来られたイコールネット仙台の宗片恵美子さんの講演を、多くの方々にお聞きいただきたいです。

これからも全ての方がそれぞれの個性を活かして生きがいを感じられる社会の実現に、地道な甲府市男女共同参画推進委員活動を通して寄与していきたいです。



災害が起こる、その前に！

みなさんの避難所について考えてみませんか？

トイレの場所は・・・



人目につきやすい場所？

物資の配給係には・・・



女性もいますか？

炊き出しは・・・



男性も参加していますか？

～避難所にジェンダーの視点を～

2024年1月1日、石川県能登地方を震源とする最大震度7の地震が発生しました。この度の大規模地震により犠牲となられた方々のご冥福を謹んでお祈りするとともに、被害に遭われた皆様に心よりお見舞い申し上げます。

政府の地震調査研究推進本部によると、南海トラフ沿いで発生する大地震が30年以内に起こる可能性は70～80%、山梨県地震被害想定調査では、南海トラフや山梨県周辺の活断層が引き起こす大規模地震の想定震度は7と言われ、一人ひとりの災害への準備が重要となっています。また、東日本大震災を機に、男性中心に考えられた防災対応を、ジェンダー視点に見直す取組が進んでいることをご存じでしょうか。

第8期甲府市男女共同参画推進委員会は「ジェンダー視点からみた防災」をテーマに活動しました。私たちが暮らす地域社会には、様々な人が生活しています。災害時に直面する困難は、男性、女性、高齢者、障がいのある方、妊産婦、乳幼児、外国人、性的少数者等、人によってその困難や、必要とするものに違いがあります。ジェンダーの視点は、災害などの緊急時には見落としがちですが、人権を守るために決しておろそかにしてはならない視点です。私たちは災害時にジェンダー視点で必要な事は何かを議論し、避難所運営に関する気づきの提案をチェックポイントとしてまとめてみました。

※ジェンダー（男性・女性という生物学的性差に対し、社会的・文化的につくりあげられた性別）

第8期 推進委員会の班活動 ～ジェンダー視点からみた防災～

1年目 ～学び～

★避難所運営について学習会の開催

—講師：NPO 法人災害・防災ボランティア未来会 山下博史さん

- ・災害現場でボランティアとして活動された経験とそこから得られた教訓をお聞きしました。
- ・避難所運営ゲームHUG（机上で行う体験型シュミレーションゲーム）を使い、避難生活や平常時の備え、避難者の特性に配慮した避難所運営、住民主体の避難所運営などについて考え、想定外の事案に遭遇する場合の気づきを学習しました。避難者カードには避難者の様々な情報が記載されていて、多様な生活スタイルがあることを改めて実感しました。



★「甲府市の防災と女性の防災」について学習会の開催

—講師：甲府市防災指導課 福田智子さん

★ジェンダー視点の防災とは何かの学習会の開催

2年目 ～学びの共有～

★ジェンダー視点からみた防災に必要なことは何かを班別で探究し、全体で共有

- ・避難所づくりにおいて、問題や課題を洗いだし設営や役割別に分けました。
- ・「避難所づくりにおけるジェンダー視点からみたチェックポイント」の土台づくりをしました。

この度の令和6年能登半島地震により被害に遭われた皆さまに、心からお見舞い申し上げます。



「防災について
思うこと」

田中 克枝

山梨も富士山、活断層帯が通っています。いつ何があってもおかしくはないでしょう。しかし、なかなか備えておくことができなくて時間だけが経ってしまいます。いつか起こることが確実で、もっと生活の中で具体的に考えてみたらどうかと思っています。私はエプロンの中に、飴、ティッシュ、笛、小さなクリームを入れ、カバンには、お菓子、ラジオ、自治会でもらった災害のしおり等を入れてあります。推進委員会の活動の中で、人を大事にしたいと今まで以上に思うようになりました。誰かが大変な時には、自分ができることで支えたいと思いますし、また、自分が辛い時は支えてもらえるような、老若男女問わず助け合えることを目標にしています。

会議を2部制とし、現役で働く委員や子育て中の委員に参加しやすい環境を作りました

昼の部

13:30～
15:00



夜の部

19:00～
20:30



班活動を通して、「避難所づくりにおけるジェンダー視点からみたチェックポイント」が出来ました。防災対策をジェンダー視点から考えて意見を出し合ってまとめたものを掲載しています。

それぞれの家庭、職場、自治会、所属している団体等においてこのチェックポイントを活用していただくと幸いです。

避難所づくりにおける
ジェンダー視点からみたチェックポイント

災害が発生した際に各自治会における避難所の設営について、ジェンダー視点を取り入れたチェックポイントです。各自治会や組織で災害に備え、話し合っていたいただくためのきっかけにしていいただければ幸いです。

No	ジェンダー視点からみたチェックポイント	<input checked="" type="checkbox"/>
1	トイレは人目につきやすい場所に設置してありますか？ 性犯罪防止のために人目につきやすいところに設置しましょう	<input type="checkbox"/>
2	入浴時間を男女で分けてありますか？ 女性の入浴時間帯には女性の見張り役をつけましょう	<input type="checkbox"/>
3	物干し場のエリアは、男性・女性で分けてありますか？ 下着が干しづらい、盗難等があるので監視役は女性にしましょう	<input type="checkbox"/>
4	男性用・女性用の更衣室はありますか？ 防犯のため、場所を分けて配置しましょう	<input type="checkbox"/>
5	炊き出し係が女性だけの負担になっていませんか？ 男性も積極的に参加しましょう	<input type="checkbox"/>
6	授乳室はありますか？ 外から見えない配慮をしましょう	<input type="checkbox"/>
7	ひとりで避難している女性たちをグループで配置していますか？ 盗難や性犯罪防止のため、声をかけあい、ひとりで行動しないようにしましょう	<input type="checkbox"/>
8	物資の配給係は男性だけでなく、女性も配置されていますか？ 生理用品など、女性でないと言いにくい場合があります	<input type="checkbox"/>
9	リーダー（決定する役割）の中に女性はいますか？ 女性・子ども・若者・高齢者・障がい者それぞれの視点が必要です	<input type="checkbox"/>
10	あなたの自治会に女性の防災リーダーはいますか？ 甲府市には「女性のための防災リーダー研修」があります	<input type="checkbox"/>

ジェンダーとは、「男・女」という生物学的な性別ではなく、長い歴史の中で社会的・文化的に作られてきた性差を示す概念のことで、「女性だから」「男性・女性どちらにも属さない性だから」という理由で差別を受けたり、社会の中で活躍する機会が少なかったりすることもあります。甲府市男女共同参画推進委員会は、そのような差別や不平等をなくし、だれもが自分らしく生きることができる甲府市を目指して活動しています。

第8期甲府市男女共同参画推進委員会
令和5年度作成